

めだかの学校だより

平成 27 年 2 月 1 日
 第 87 号
 学舎：周智郡森町一宮
 「一宮総合センター」
 事務局：静岡県磐田市
 家田 529-20
 TEL: 0539-62-6691

校長訓話

第八十七回 校長 西島 朋子

「哲学カフェに参加して」

11月、静岡市で開かれた第九回哲学カフェに参加しました。全国で哲学カフェが広まっている中で、静岡も静大の竹ノ内先生を中心に隔月ごと始まりましたが、なかなか参加できずやっと何うことが叶いました。

哲学カフェは、一九九〇年代にフランスから始まったそうで哲学的知識・歴史を踏まえ参加者で徹底討論するという場です。哲学、という言葉が頭につくと何とも堅苦しくその言葉だけで多くの方は引いてしまいがちかと思いますが、一体どんな人が集まり、どんな雰囲気なのか興味津々で参加しました。

今回のテーマは「老いるとはどのようなことか」会場は駅前の丸井の喫茶店内でした。仕事で少し遅れたのですが会場は一杯10人ほどが一つのテーブルを囲み、四

テーブルありました。参加者はコアな人たちが全員で十数人ぐらいいかな、と思っていたので予想以上の人数にまず、びっくり。参加者は二〇代から八〇代とお見受けしました。男女比は七対三ぐらいで男性が多かったのですが色々な方々が集っていたことも驚きでした。皆さんよく発言します。

良く聞いています。

若くてもしっかりと考えた考えと知識を持っていきます。

他の方の意見も尊重しつつ、はっきり自己主張もします。

普段から問題意識も高く、話し合ったり討論をすることにも慣れた方々が多いな、と感心しながら聞いていました。私はといえば、何せ初めての参加ですから控えめに指名された時だけ意見を述べていました。お隣にも自ら発言しない方が二人ほどいましたが、指名されると解りませんとか、もじもじすることなく的確な発言をされるのでした。うちのテーブルの議事進行役のファシリテーターは二〇代後半の学生

さんと思しき男性でしたが、見事に舵取りもしますし、最後のテーブルごとの発表も上手にまとめていました。参加者の多岐にわたる発言や内容の濃い取りまとめはかなり大変だと思いますが、若いのにやるな、とここでも大層感心しました。

哲学カフェは、特定の考え、思想の強要はしないし、それぞれの立場で徹底討論することに意義があるのだと思います。結論はださないし、出せるものでもありません。日本という風土は、強力な個性を嫌ったり以下同類、みたいなことが美德として教育されてきたように思います。波風立てず、穏便に穏便にと暮らすのは、日本が島国ゆえの生活の知恵でもあったことでしょう。それはそれでいい面も沢山ありますが、意見を戦わせる風潮はもつともっと広がらねばいけないと思います。学生がデイベイトで激しく口論し、相手をねじ伏せる経験も必要でしょう。

老いも若きも、男女を問わず市井の人々が街角のカフェで世相の事、文化・芸術、政治経済を語り合う風景・・・想像しただけで素敵だと思いませんか？
 日本になかった新しい文化の風です。



めだかの学校伝言板

——第 87 回めだかの学校を開校するので出席しなさい。

- 校長／西島朋子
 - 教頭／鈴木計芳
 - 用務員／大久保陽
 - 給食係／天野智加志・村木謙式・鈴木祐之・大久保陽
野嶋一男・中村やす子・加藤ひとみ・森貴子
大場みや子・池田タキ江・渡辺三ツ子(チーフ)
- ※お手伝いできる人はぜひ早めにお出かけを！

<学舎> 静岡県周智郡森町一宮「一宮総合センター」
 TEL: 0538-89-7730 (開校日のみ)

開校日／平成 27 年 3 月 6 日 (金) 6:20PMより
 受付／池谷敬・大場敬子・岡田京子・斉藤昭 (後見人)
 22 期通年テーマ:

『初心にかえろう～あなたにとっての初心とは?～』

今回のテーマ:

<ことばと文字を紡いで未来へつなげるとは...>

<時間割>

- 給食の時間～3月はひなご膳づくし?～
- 1時間目 国語 奥宮教生
「今をみつめ、未来へ語り伝える思い…」
- 2時間目 社会 水島加寿代 先生
「取材ライターとして感じる地域としげんと人と…」
- 先生を囲んで質疑応答なんでも討論会? 9:30 閉校



めだかたち

■第13回全国まちづくり交流会 in北海道・蘭越

第13回全国まちづくり交流会 in 蘭越は、8月28日(金)～30日(日)まで、北海道蘭越町で開催されます。スケジュール・開催要項は、4月上旬に発送する予定です。8月28日(金)、17時30分受付開始。18時～前夜祭。29日(土)、午前～町内視察・収穫体験等。午後～シンポジウム。18時～大交流会。30日(日)、自由解散。エクスカーション(川下り・フットパス等)。
※新千歳空港への送迎バス運行を検討

『めだかの学校のみなさんへメッセージ』
森町大会では、心温まるおもてなしをありがとうございました。

めだかさんたちのおかげで、大会の常連だけでなく、多くの地元の方々と触れ合えたこと、手づくり感いっぱいのお会だったことが感動的でした。

今年、私が移住して7年目になる北海道・蘭越町での開催が実現します。村松めだかさん同様、数年前から開催を希望していたのですが、森町大会に参加した際に「こんな温かい大会を私の町でもやりたい!」と実現への思いが強まりました。

私一人から動き出したことですが、いまはネットワークが広がっており、賛同してくれた仲間たちは皆さんにお会いできるのを楽しみにしています。皆さんからいただいたこのチャンスを生かし、皆さんの力をお借りしながら、今後の蘭越を考える

輪へとつなげていけたらと願っています。ぜひ、皆さんをお迎えするためにつなごう仲間たちにお会いにお越しください! 通信にてお知らせさせていただきます。感謝いたします。

実行委員会事務局長 原田ひろこ

■ミュージカル「ブツダ」磐田公演 ありがとうございました!

12月13日わらび座ミュージカル「ブツダ」磐田公演、無事開催することが出来ました。当日は雪もチラホラと舞うほどの寒さの中でしたが、757名の方々にお越しいただきました。市内の中高生のご招待にも32名の高校生ボランティア含め205名の子供たちが親に来てくれました。特に子供たちにとっては今後の人生において、素晴らしい心の糧になったのではないかと、校長先生からも感謝の言葉を頂きました。親に来ていただいた方々が口々に感動とお礼を口にして頂けたことが、何よりもありがたいことでした。

こちらの通信でも再三ご案内をし、めだかの皆様方には多大なるご尽力とご心労をおかけいたしました。この成功は何よりも皆様方お一人おひとりのお力によるものと感謝いたします。ほんとうにありがとうございました。 大島たまよメダカ

■昨年は激動の一年になりました

静岡県庁を早期退職し4月から富士山のふる小山町役場に経済建設部専門監として勤め、町長の特命事項に対応してまいりました。県内初「家・庭・一体の住宅地」の造成の設計施工一括発注、健康福祉会館のリニューアル設計、地元産木材、富士山金時材のロゴマーク策定、インターンシップ学生の受け入れ、役場エントランスのリニューアルの設計施工一括発注、富士山五

合目須走口再整備計画、金時公園の再整備計画、観光振興計画、企業誘致他を先導あるいは関わり、自身がいたからできていることがあることを実感しています。もちろん、友人・知人が力を寄せていただいたからこそできています。

様子見に遊びにお越しくださいませ。歓迎いたします。 小山町 溝口久メダカ

■森町発「徳川家康と森の町」

第20回「町並みと蔵展」4月4日(土)～5日(日)

いよいよ新緑と桜満開の森町になります。今回の町並みと蔵展では徳川400年に因んで、森町での家康の足跡を辿りたいと思います。メダカの方皆さんも一緒にどうぞ! 町並みと蔵展では4月4日(土)午後1時より西光寺にて講演会が行います。その他、毎月第3日曜日には朝7時より遠州森町でトイレ掃除、8時30分より古着市、10時から大洞院にて座禅会が行われます。皆さまのお出掛けをお待ちしております。お問い合わせは090・1472・6189 榊原淑友メダカまで

■いにしえをつなぐアーティスト

昨年めだかの学校に新入学した春野町の池谷敬メダカ。中山間地への移住組で、地元の人達との交流を通じて田舎の魅力を発見。次々と面白い企画を立てては「春野人めぐり」や「北遠人めぐり」の仕掛け人。都会の人達を北遠へ招いています。そんな池谷メダカの新企画「いにしえをつなぐアーティスト」。天竜区に現存する伝統芸能や伝統工芸。それは生活の一部として脈々と受け継がれてきたもの。そんな伝統を受け継ぎ繋いできた人々を「アーティスト」の観点から切り込み、浜松市中区の鴨江アートセンターで4回にわたってト

クセツションするもの。①2月8日歌舞伎や獅子舞 ②2月15日西浦田楽 ③3月1日伝統工芸(和紙・竹・鍛冶) ④3月15日伝統工芸(染・織・櫛)と、それぞれの担い手たちの生き方や思いを生々の声で聴くことが出来ます。

またこのほかにも3月6～8日「昭和レトロの二俣めぐり」企画。注目です!

■遠州路に春の訪れを告げる「三熊野神社大祭」4月3日(金)～5日(日)

「遠州の祭りは横須賀に始まり、森に終わる」。遠州横須賀・三熊野神社大祭、4月3日(金)～5日(日)、遠州横須賀の城下町は祭り一色に染まります。満開の桜の下、江戸天下祭の流れを引く13台の祢里(ねり山車)が曳き出され、三社祭礼囃子(県無形文化財第1号・S30)の名調子に乗って練り歩きます。また町なかの清水邸ご本宅では、毎年恒例となった松本芳廣メダカによる、手打ちそば交流会も予定しています。春爛漫の遠州横須賀へぜひお越し下さい。 鈴木武史メダカ

■ひと足早い「春」のイベント

立春を過ぎたとはいえ、春は名ばかり! ちよつと気の早い「春」のイベントをご紹介します。

4月上旬、春野町・尾上美智子メダカ宅において、「信濃煙(しなんばた)のコンサート」が行われます。山々に囲まれ、満開の桜の下で行われるコンサート、そして手作りの料理で「春野」の「春」をお楽しみください。演奏者、日程は近日中に決定、こちらもお楽しみに!

4月25日(土)旧豊岡村・鈴木正士メダカ宅「大平山荘」において、毎年恒例の「お茶摘みイベント」が開催されます。毎年100人近くの仲間たちが集合、お茶摘みを

はじめ、山菜取り、タケノコ掘りなど体験、採りたての山菜を使った料理や釜炒り茶、つきたてのお餅、手打ち蕎麦などなど、そして新緑の中でのコンサートも自然とのハーモニーを満喫できるイベントです。

おせっかいメダカ生徒

「人ひと、ヒト」だより

今年もたくさんの方々が寒中お見舞いを頂きました。ありがとうございます。その中からほんの一部ですが、「ひと・人・ヒトだより」に掲載させて頂くことにしました。

●先ずは春のうれしい便りから。浜松市の小野田宗弘メダカ。春ごろに結婚することが決まりました。雪が溶けて春風が吹いたら嫁が来ます。だって。3人の子育てしながらよく頑張ったね。天国の奥さんも祝福してるヨ。

●お正月に、森町の小國神社に初詣に行ったら、本殿の前に『鉄のひつじ』。表示板に「一宮鈴木格子メダカ」とある。そう、めだか生の鈴木格子メダカ。いやよく出来てゐる。帰り際に天浜線一宮駅経由で寄ったら、駅には鉄の大黒様、家の前には「エトの羊」と思いきや、ない」コリヤ、マイッタね。(笑)。

●東京のかまちょよろうメダカ。(磐田市出身)静岡新聞朝刊四コママンガ『ゴンちゃん』連載6年、益々快調。今年はいよいよ「犬サブレプロジェクト」が2月より始動だ。ペラペラと本売れるといいね。

●千葉県習志野市の市原実メダカ。私製年賀状に使用するために、年賀切手が昭和十一年から発行されていた。だって。3年間発行されて中絶、昭和二十五年に再開。二十五年は寅年で虎の図、2円。二十九年丑年からは干支に関連しての郷土玩具が選ばれるようになった。二十九年は福島の三春

駒：六十四年は巳年で宇都宮の土鈴のへび、四十円。昭和分を列挙してくれていました。平成は？、皆さん調べてみて、おもしろいヨ。

●浜松市の手創り工房「和の森」の藤田吉恭メダカ。ノーベル賞の天野浩氏と同町内出身、全く面識はありませんが：だって。日々の出来事ブログ「wanomorihamazo.tv」。吉恭メダカの思ひが見えるかも。

●島田市の池谷俊裕メダカ。我人生還暦までできました。昨春秋、腰痛の為、MRI写真を見せられた時、シヨック。ヘルニアと狭窄症の合併、重症化しないようつきあつていくしかない。『暮らの中にユーモアの心をもちとう』が我家の一年の合い言葉だ。ユーモアの心で人生前向き。

●森町の村松達雄メダカ。昨年6月、雅楽の最高峰「東京楽所」が来町、第一部で小國・天宮の舞楽を披露。世界最古のオーケストラといわれる雅楽との共演は大きな反響を呼びました。9月には京都の地で上演。先人たちの偉大な足跡を辿り、次の世代に繋げられる時代の歯車になる、と。6月13日(土)に磐田市で行われる「2015 国分寺まつりin遠江」で天宮神社の舞楽と小國神社の古式舞楽を披露する、と。小國神社の古式舞楽は天野智加志メダカ。伝統を継承する人たちの信念は凄い。誇りだね。

●NPO法人地域づくりサポートネット代表理事の山内秀彦元メダカ。静岡県が誇る富士山や浜名湖の自然を守り、活用していく活動を進めてきました。また、東日本大震災から二年が過ぎますが、震災のことを忘れないうための活動をこれからも続けていく、と。

●静岡市清水区の花井孝メダカ。1月末日をもって、清水駅前商店街で、創業六四年

の帽子店「マルハナ」の歴史に幕を降ろし、いま再びの「いい日旅立ち」をいたします。同じ事務所にあった「地域活性化戦略研究会」は、清水区山切に移転します。だって。「静岡県で一番充実していた帽子店の幕降ろしはさびしいですが、地域づくりへの想いは衰えることはありません！」とは事務局のバラメダカ。

●磐田市の文化情報誌「NEOパンフキン」の小林佳弘メダカ。創刊三七年通巻412号を数える。一昨年の10月から、語り部となり磐田市見付でスタートした「カボチャ食堂」と名付けたふるさと勉強会も順調に推移、楽しみの1つと。諭は「傘寿」の山を越えたが、郷土の史話「遠州海國今昔物語」を発行する予定、だって。

■計報
周智郡森町の小平史伸さんが病氣療養中のところ1月9日に逝去いたしました。享年62歳。小平さんは学舎が森町に移った時に登校しましたが、その後難病の筋委縮症となり、亡くなりました。ご冥福をお祈りいたします。

XXXX XXXX
今回は紙面の都合でこれまで、では皆さまごきげんよう。

※都合により「めだか春秋」はお休みです。その関係でトピックスの場所がいつもと違います。ご容赦ください。

トピックス

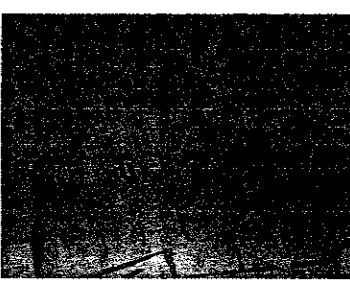
■寒い、毎日届く一枚の葉書
平成26年12月6日の第86回めだかの

学校に、体調を崩して初めての欠席。その3日後、わが家に毎日一枚の葉書が届くようになった。1月31日現在なんと53枚。その送り主は浜松市浜北区の奥宮教生メダカ。筆本の俳句と、万年筆の文字。さり気ない日常や、祈りや励まし、奥宮語録やユーモア、バラエティに富んでいる。3回目の12月11日葉書を見た妻の明美さんは「今のお父さんはこれよ」と、その葉書を差し出す。俳句で「出殻を捨て次期待つ紅葉かな」。紅葉も一段落、落葉は肥やしとなり、来春には新緑を築きませ、秋には多くの人々を旅情豊かに語らうでしょう。人生もまた同じ、「ひと皮むける」とは苦難や難事を越えた人間を指すのでしょうか。一回り大きくなるための「古いもの」を捨てる時期かも。ではまた奥村教生。

数日後にわらび座のミュージカル「ブツダ」を控え、なにもできずみなさんに迷惑をかけ、ただただ友人知人に「ブツダ」への観劇をお願いしている私を知っているからでしょうか。「先ずは健康を取り戻すこと」と、以後奥宮さんからの葉書の来るのを楽しみにしている。心の糧にしている。妻に笑われたが俳句もいくつか。

「友のふみ手渡す妻や梅薫る」
葉書は3月6日の第87回めだかの学校の前日まで

つづくとか
出す方が
もらう方も
もらう方も
と笑わせる。
(バラメダカ)

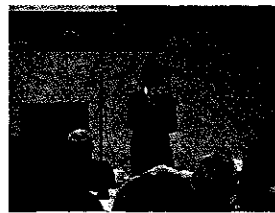


■事務局だより
平成26年12月5日、校長 石野省三、教頭 大場みや子、用務員 鈴木青宵。今回の事務局だよりは第86回の授業風景を写真でお送りします。



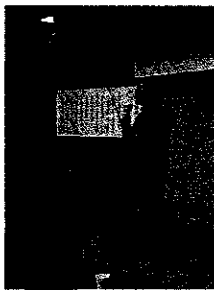
今回は授業の前に給食です。給食当番の皆さん、ありがとうございます！

献立はいも汁食べ放題、季節の野菜煮物 etc 春華まつもとさんのお菓子付！



新入生の紹介、お一人様です。

校長訓話「はひふへほ」の生き方などなど。



いよいよ授業の始まり！
それぞれの分野の3先生方の個性あふれる授業です。



事務局から、榊原さん欠席のため、伊藤英雄メダカが手紙を代読。



本日「振鈴」が行方不明、金物のボールとお匙で代用。

お別れは恒例「今日の日はさようなら」手をつないで、握手して、次回の再会を約束してさようなら。



大抽選会、棚田米は誰の手に？



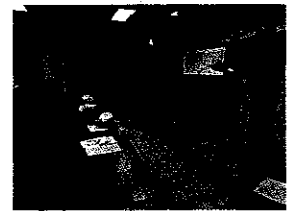
こちらは次回給食当番の皆さんです。



何でも質問コーナー、鋭い質問に答える先生もタジタジです。



次回、第87回の三役の皆さん、よろしくお願いいたします。校長：西島朋子 教頭：鈴木計芳 用務員 大久保陽



■事務局より
寒い中にも植えたいばかりの紅梅が元気をくれていきます。心配をおかけしています。2月5日から聖隷三方原ホテルへ再逗留です。楽しんできますヨ。右頸動脈狭窄の手術。「血流を良くして脳の活性化。ですよね、先生」。『それはー』だって。やっぱりムリですか(笑)。第87回のめだかの学校には、元気な姿で出席しますヨ。(バラムダカ)

■第22期の受け付けています。

第22期めだかの学校は、平成26年9月1日から平成27年8月31日までです。未継続生は入学金1000円を添えて、郵送又は事務局までご持参下さい。申込み手続きのなされない生徒は名簿からはずれ、自主退学となります。ご注意ください。新しく希望される方がいましたら事務局までご連絡下さい。資料と申込書をお送りします。

■めだかの学校だよりの原稿を！

次回の発行は、5月1日予定。締切りは、4月20日です。ぜひご連絡を！
郵便かFAXで。メールの方は、
《mabuchi-trd@yr.tnc.ne.jp》
間瀬亮太090・5009・0986です。
(メールの方は割付の関係もあるので「報を」)

■めだかの学校の事務局

〒438-0105 静岡県磐田市家田5
29番地20 榊原幸雄方 TEL 05
39-62-6691 (FAX同C)
※学舎「一宮総合センター」周智郡森町一
宮3150。電話 0538-89-77
30 開校日の午後4時以降のみ使用可。
携帯 080-1612-9130

